佳作

生まれてきてよかった

鹿児島県　屋久島町立神山小学校二年　樫村　佳苗

わたしは、家であそんでいるとき、ふと手をとめて考えました。「わたしは、生まれてきてよかったのかな」。

どうしてこんなことを考えたのかというと、一年生のときは、学校のことやべんきょうのこと、あたらしい友だちのこと、ぜんぶがはじめてで、どきどきわくわくの毎日で、心もきんちょうしていました。

でも、二年生になったら、きんちょうもすくなくなって、いろいろなことを考えるようになりました。べんきょうもむずかしくなって、朝のかけあしやなわとび、とうばんかつどうなど、やらなければならないこともふえました。それにくわえて一年生のおせわもしなければなりません。そんなときに、「わたしが生きていなければ、たいへんとか、つかれるということがなくなるのにな」と考えました。

そこで、お母さんに、

「ねえ、お母さん、わたしが生まれてきてよかった。」

と聞いてみました。お母さんは、目を大きくしてびっくりした顔で、

「どうして、そんなこと聞くの。」

と言いました。

「ただ、なんとなく。」

わたしは、ただそうこたえました。

「お父さんとお母さんはね、けっこんしてもなかなか子どもができなかったから、びょういんへ行って毎日ちゅうしゃをしたり神社におまいりに行ったりして子どもができますようにと、ずっとおいのりしていたんだよ。」

「そうしたら、こんなにかわいい赤ちゃんがうまれて、お父さんもお母さんも、おじいちゃんもおばあちゃんも、うれしくてうれしくて、毎日がしあわせでいっぱいなんだよ。」

お母さんは、にこにこしたえがおでわたしをぎゅうっとだきしめてくれました。

それを聞いて、くすぐったくてはずかしかったけど、生まれるってすごいことなんだなと、とてもうれしい気もちになりました。わたしもにっこりえがおになりました。

たいへんなことや、つかれることがこれからもたくさんあると思います。でもそんな時は、友だちとおしゃべりをしたり、テレビを見ながらごろごろしたり、大すきなダンスをおどったりして、楽しいことをたくさん見つけてがんばりたいです。

なによりも、わたしにはお父さんとお母さんがみかたになってくれます。さいきょうのみかたです。「生まれてきてよかった」。今はとてもそう思います。

お父さん、お母さん、わたし生まれてきて本当によかった。ありがとう。これからもよろしくおねがいします。